衛生管理者免許試験　公表問題

労働衛生（有害業務に係るもの以外）

① 温熱条件
② 視環境
③ 必要換気量
④ 快適職場
⑤ 労働安全衛生マネジメントシステム
⑥ 腰痛予防対策
⑦ 受動喫煙防止のガイドライン
⑧ 食中毒
⑨ 感染症
⑩ 情報機器作業
⑪ 労働衛生対策
⑫ 健康保持増進
⑬ メンタルヘスル対策
⑭ エイジフレンドリー
⑮ 健康診断の検査項目
⑯ 労働衛生管理統計
⑰ 脳血管障害・虚血性心疾患
⑱ 一次救命処置
⑲ 出血・止血法
⑳ 熱傷
㉑ 骨折

新潟ウェルネス
一般社団法人 新潟県労働衛生医学協会

【令和６年４月】

【 問３３ 】　照明等の視環境に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）照度の単位はルクスで、１ルクスは光度１カンデラの光源から１m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

（２）前方から明かりをとるときは、まぶしさをなくすため、眼と光源を結ぶ線と視線が作る角度は、おおむね 30°以上になるようにする。

（３）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の 15 分の１以下になるようにしている。

（４）室内の彩色で、目の高さ以下の壁や床には、まぶしさを防ぐため濁色を用いるようにする。

（５）高齢者は、若年者に比較して、一般に、高い照度が必要であるが、水晶体の混濁により、まぶしさを感じやすくなっている場合もあるので、注意が必要である。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（４）（５）正しい

（３）**誤り**：「15 分の１以下」⇒「10 分の１以上」。

＊解答＊　（３）

【令和４年 10 月】

【 問３２ 】　照明、採光などに関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）１ルクス(lx)は、１カンデラ(cd)の光源から、１m離れた所において、光軸に垂直な面が受ける明るさをいう。

（２）部屋の彩色として、目の高さ以下は、まぶしさを防ぎ安定感を出すために濁色とし、目より上方の壁や天井は、明るい色を用いるとよい。

（３）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度としている。

（４）前方から明かりを取るときは、まぶしさをなくすため、眼と光源を結ぶ線と視線とがなす角度が、40°以上になるように光源の位置を決めている。

（５）照明設備は、１年以内ごとに１回、定期に点検し、異常があれば電球の交換などを行っている。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（４）正しい

（５）**誤り**：「１年以内ごとに１回」⇒「６か月以内ごとに１回」。

＊解答＊　（５）

【令和４年４月】

【 問３３ 】　照明、採光などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

（１）北向きの窓では、直射日光はほとんど入らないが一年中平均した明るさが得られる。

（２）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度としている。

（３）前方から明かりを取るときは、まぶしさをなくすため、眼と光源を結ぶ線と視線とがなす角度が、40°以上になるように光源の位置を決めている。

（４）照明設備は、１年以内ごとに１回、定期に点検し、異常があれば電球の交換などを行っている。

（５）部屋の彩色として、目の高さ以下は、まぶしさを防ぎ安定感を出すために濁色とし、目より上方の壁や天井は、明るい色を用いるとよい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（５）正しい

（４）**誤り**　:「１年以内ごと」⇒「６か月以内ごと」。

＊解答＊　（４）

【令和３年10月】

【 問３３ 】　照明、採光などに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

（１）北向きの窓では、直射日光はほとんど入らないが一年中平均した明るさが得られる。

（２）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度としている。

（３）前方から明かりを取るときは、まぶしさをなくすため、眼と光源を結ぶ線と視線とがなす角度が、40°程度になるように光源の位置を決めている。

（４）照明設備は、１年以内ごとに１回、定期に点検し、異常があれば電球の交換などを行っている。

（５）部屋の彩色として、目の高さ以下は、まぶしさを防ぎ安定感を出すために濁色とし、目より上方の壁や天井は、明るい色を用いるとよい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（５）正しい

（４）**誤り**　:「１年以内」⇒「6か月以内」

＊解答＊　（４）

【令和３年４月】

【 問３３ 】　照明などの視環境に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）前方から明かりを取るときは、眼と光源を結ぶ線と視線とで作る角度を40°程度としている。

（２）照明設備については、６か月以内ごとに１回、定期に点検し、汚れなどがあれば清掃又は交換を行っている。

（３）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度にしている。

（４）照度の単位はルクスで、１ルクスは光度１カンデラの光源から10m離れた所で、その光の光軸に垂直な１㎡の面が受ける明るさに相当する。

（５）室内の彩色で、明度を高くすると光の反射率が高くなり照度を上げる効果があるが、彩度を高くしすぎると交感神経の緊張により疲労を招きやすい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（５）正しい

（４）**誤り**　:「10m」⇒「１m」。１ルクスは光度１カンデラの光源から１m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

＊解答＊　（４）

【令和２年10月】

【 問３３ 】　照明などの視環境に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）前方から明かりを取るときは、眼と光源を結ぶ線と視線とで作る角度が、40°程度になるようにしている。

（２）あらゆる方向から同程度の明るさの光がくると、見るものに影ができなくなり、立体感がなくなってしまうことがある。

（３）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度になるようにしている。

（４）照度の単位はルクスで、１ルクスは光度１カンデラの光源から10m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

（５）室内の彩色で、明度を高くすると光の反射率が高くなり照度を上げる効果があるが、彩度を高くしすぎると交感神経の緊張を招きやすく、長時間にわたる場合は疲労を招きやすい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（５）正しい

（４）**誤り**　:「10m」⇒「１m」。１ルクスは光度１カンデラの光源から１m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

＊解答＊　（４）

【令和２年４月】

【 問３２ 】　照明、採光などに関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１） １ルクス(lx)は、１カンデラ(cd)の光源から、１m離れた所において、光軸に垂直な面が受ける明るさをいう。

（２）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の５分の１程度としている。

（３）前方から明かりを取るときは、まぶしさをなくすため、眼と光源を結ぶ線と視線とがなす角度が、40°程度になるように光源の位置を決めている。

（４）照明設備は、１年以内ごとに１回、定期に点検し、異常があれば電球の交換などを行っている。

（５）部屋の彩色として、目の高さ以下は、まぶしさを防ぎ安定感を出すために濁色とし、目より上方の壁や天井は、明るい色を用いるとよい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（３）（５）正しい

（４）**誤り**：「1 年以内ごと」⇒「6 か月以内ごと」。設問は、関係法令（有害以外）で出題されていた。事業者は、労働者を常時就業させる場所の照明設備について、6 か月以内ごとに 1 回、定期に、点検しなければならない。安衛則第 3 編[衛生基準]第 605 条（採光及び照明）第 2 項。事業者は、室の照明設備について、6 か月以内ごとに 1 回、定期に、点検しなければならない。事務所則第 10 条（照度等）第 3 項

＊解答＊　（４）

【令和元年 10 月】

【 問３３ 】　照明などの視環境に関する次の記述のうち、**誤っているもの**はどれか。

（１）前方から明かりを取るときは、眼と光源を結ぶ線と視線とで作る角度が、40°程度になるようにしている。

（２）部屋の彩色に当たっては、目の高さから下の壁などは、まぶしさを防ぐため濁色にするとよい。

（３）全般照明と局部照明を併用する場合、全般照明による照度は、局部照明による照度の 10 分の１以上になるようにしている。

（４）照度の単位はルクスで、１ルクスは光度１カンデラの光源から 10m離れた所で、その光の光軸に垂直な面が受ける明るさに相当する。

（５）室内の彩色で、明度を高くすると光の反射率が高くなり照度を上げる効果があるが、彩度を高くしすぎると交感神経の緊張を招きやすい。

▸▸解説◂◂

（1）（2）（3）（5）正しい

（4）**誤り**：「10m」⇒「１m」。1 ルクスは光度 1 カンデラの光源から１m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

＊解答＊　（4）

【平成 30 年 10 月】

【 問３２ 】　採光、照明などに関する次の記述のうち、<u>正しいもの</u>はどれか。

（1） 部屋の彩色に当たり、目の高さから上の壁及び天井は、まぶしさを防ぐため濁色にするとよい。

（2） 室内の彩色で、明度を高くすると光の反射率が高くなることから照度を上げる効果があるが、彩度を高くしすぎると交感神経の緊張を招き、長時間にわたる場合は疲労が生じやすい。

（3） 照度の単位はルクスで、１ルクスは光度１カンデラの光源から 10m離れた所で、その光に直角な面が受ける明るさに相当する。

（4） 前方から明かりをとるとき、目と光源を結ぶ線と視線とが作る角度は、30°未満になるようにする。

（5） 作業室全体の照度は、作業面の局部照明による照度の 10%未満になるようにする。

▸▸解説◂◂

（1）誤り：「まぶしさを防ぐため濁色」⇒「照明効果を上げるために白などの明るい色」

（2）正しい

（3）誤り：「10m」⇒「１m」

（4）誤り：「30°未満」⇒「30°以上」

（5）誤り：「10%未満」⇒「10%以上」

＊解答＊　（2）

【平成 30 年 4 月】

【 問３３ 】　照明などの視環境に関する次の記述のうち、<u>誤っているもの</u>はどれか。

（１）前方から明かりをとるとき、眼と光源を結ぶ線と視線が作る角度は、45°程度としている。

（２）作業室全体の照度は、作業面の局部照明による照度の５分の１程度になるようにしている。

（３）１カンデラ（cd）の光源から 10m離れた所でその光に垂直な単位面積の面が受ける明るさを１ルクス（1ｘ）という。

（４）部屋の彩色として、目の高さ以下の壁面は、まぶしさを防ぎ安定感を出すために濁色を用い、目より上方の壁や天井は、照明効果を良くするため明るい色を用いるとよい。

（５）室内の彩色で、明度を高くすると光の反射率が高くなることから照度を上げる効果があるが、彩度を高くしすぎると交感神経の緊張を招き、長時間にわたる場合は疲労が生じやすい。

▸▸解説◂◂

（１）（２）（４）（５）正しい

（３）誤り：「光源から 10m離れた所」⇒「光源から１ｍ離れた所」

＊解答＊　（３）